

登場人物

ごうだ ようこ
剛田 洋子・トウヤ

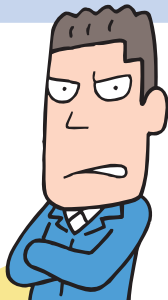
主人公である大器の妻と息子。洋子はバリバリのキャリアウーマン。大恋愛の末に結婚したものの、今は完全にかかあ天下



家族

ごうだ がんてつ
剛田 頑鉄

主人公の父親で、前社長。協定では強気な交渉も、アジャスターの見積りに手を加えるだけ。EPISODE 24で引退するが、仕事が生きがいであったため、毎日のように工場にやってくる。好きな言葉は「生涯現役」



尊敬



だれ?

さとり たくぞう
佐取 拓蔵

ご隠居アジャスター。アジャスター引退後は釣り三昧の余生を過ごす。裏まで知り尽くし、悟りの境地に

ごうだ たいき
剛田 大器

高校卒業後、職を転々とし、21歳から家業を手伝うように。31歳で頑固親父の跡を継いだ若き2代目主人公。現場経験は10年だが、社長業はピッカピカの1年生レベル



敵対?



それは ふくむ
其礼葉 含ム

某損害保険調査会社の新人アジャスター。得意技は「それは含まれています」。自尊心が高く、間違いを認めたくない

頼れる先輩



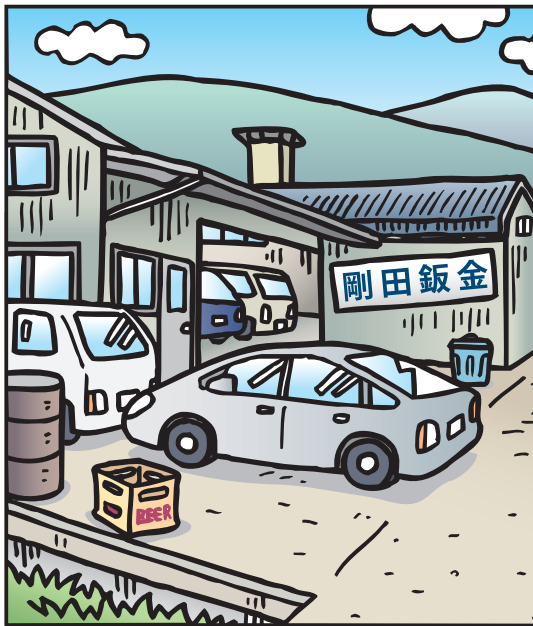
やりて しょう
槍手 翔

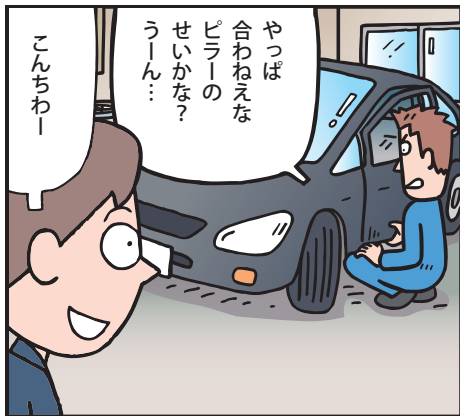
事業継承して10年。元社長は完全引退。もともと钣金塗装工場だが、代替わりをしてから、整備・販売と事業拡大。地域の勉強会では兄貴的な存在

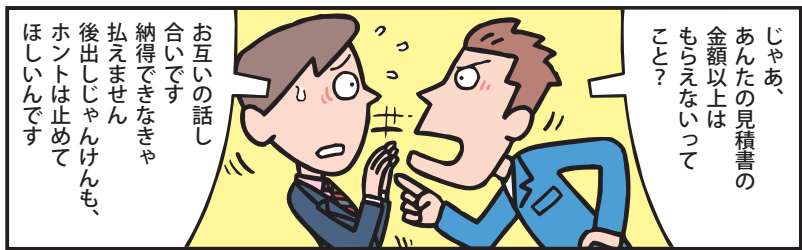
※この物語はフィクションであり、実在する人物・地名・団体とは一切関係ありません。

EPISODE 1

指数って絶対？







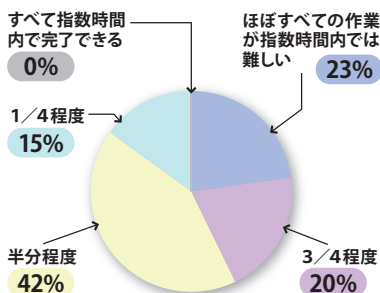
ココがポイント

指数は実作業を反映しているの？

右の円グラフは、単行本「全国見積り事情」のアンケート結果である。ほぼすべての作業が指数時間内では終わらないとの認識を持つ工場は23%となっている。

工場からのコメントとして、指数の成り立ちそのものに対する疑問や、現在の車体構造に合わせた見直しがなされていないことへの不満が見受けられた。また、指数は「参考値」としながらも、強制されていると感じる工場が多く、それが不満の原因かもしれない。

指数時間内で終了しない作業の割合



自社の経営をアジャスターに任せるの？

情報収集で各地の工場を訪問したが、まんが本編の中に出てくるように、自社で見積りを出さない工場が少なからず存在する。

ラーメン店に置き換えてみると、客に「今日は300円でいいよね」と言われているようなもの。これでは経営が成り立たない。

作業を知らないアジャスターから提示された見積書に対し、少し手を加える「後出しじゃんけん」では、本当に必要な作業がモレている可能性もあるのでは？



儲け試算 目標 200万円

とある東北地方の工場では、見積りコンピューターソフト導入後に、塗装工賃が20%も上がったという。「今までアジャスターに軽視されていたのかと思うと悔しい」と語っていた。

見積りを提示する工場が大半だとはいえ、指数マニュアルを読み、理論

武装することで、今まで見えなかった『利益』が見えることもあろう。

試算では、工場の15%が見積りを提示していないと推定し、修理・塗装工賃で5%の上昇を見込んだとする。

修理工賃1,000万円+

塗装工賃1,500万円=2,500万円

合計工賃2,500万円×15%×5%

=187,500円

